【授業科目】精神看護援助論Ⅰ（心の健康）　Mental Health and Psychiatric NursingⅠ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
大西 信行、松田 陽子	2年次 後　期	必　修	2	30	講　義	あり	巻末掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／こころの病、精神障害の理解と考え方、家族の理解などこころを病む人々が生きることを学ぶ。また精神症状が日常生活に与える影響、健康問題と援助について学ぶ。統合失調症や双極性障害などの主な精神疾患をもつ対象への看護について理解する。そして精神の健康障害をもつ人々の健康の保持・増進および健康回復の援助に必要な知識、技術、態度を修得できるように授業を展開する。 適宜ディスカッションを交えながら自分の考えを表現する。 課題に対するフィードバック方法／毎回振り返り表を学生は記入し、学習状況を確認し、適宜コメントを入れる。質問内容等については全体にも講義中にﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸする。
実務経験に関する 授業内容	看護師の臨床経験を持つ教員が、看護師として必要な精神看護の知識ついて、資料・教材を交えながら指導していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①精神の健康を保持増進するために必要な援助を修得する。 ②精神障害について理解し、身体的・心理的・社会的な側面から精神障害を持つ対象をみることができる。 ③精神症状が生活に与える影響について理解し、その援助技術を修得する。 ④精神の健康障害を持つ人々への援助をするための知識と技術を修得する。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1～15回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく（各30分）。 講義で学んだ部分について教科書の該当する部分を参考に、ノートや配布資料を整理しておく（各30分）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間／1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間／1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間／1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	
第1回　リカバリーとストレングス	①松田
第2～3回　さまざまな精神症状・こころのメカニズム (1)精神症状と看護 (2)神経症状と看護	②③大西
＜精神障がい者の理解　様々な精神疾患を持つ人 ＞	
第4回　統合失調症と看護①	④大西
第5回　気分障害（うつ病、躁うつ病）、人格障害と看護	⑤松田
第6回　てんかんと看護	⑥大西
第7回　児童・思春期の精神障害　行動及び情緒の障害　発達障害　ディスカッション	⑦大西
第8回　不安/不安障害、強迫症/強迫性障害と看護	⑧大西
第9回　アディクションと看護　家族の理解と援助	⑨松田
＜精神科における医療・福祉＞	
第10回　精神疾患における治療と検査	⑩大西
第11回　精神科リハビリテーションと看護	⑪松田
第12回　精神障害に対する社会資源と地域移行	⑫松田
第13回　精神障害をもつ人の地域生活支援の実際	⑬松田
＜精神看護の実践＞	
第14～15回 日常生活行動の支援を必要とする患者の看護 精神障害者のセルフケアの援助　　ディスカッション、ケーススタディ 1）身体の清潔 ・清潔の保持と環境衛生の支援と患者への対応 2）栄養と食事 ・食行動の支援と患者への対応 3）睡眠 ・睡眠障害の支援と患者への対応 4）対人関係に障害を持つ患者の支援と看護 5）その他 ・その他の日常生活行動の支援と患者への対応	⑭⑮大西

評価方法 評価基準	定期試験90%、受講態度10%		
教科書	医学書院　精神看護の基礎　精神看護学【1】【2】 ※精神看護学概論と同じ教科書のため購入する必要なし	参考書等	なし
学生への 助言等	精神疾患を持つ患者の基本的看護における知識を学び、支援する援助技術や態度について理解をしましょう。この講義で学ぶ内容は初めて耳にする専門用語や難解な用語もあるため、予習復習をすることで、講義の理解が深まると思います。		